

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 10-203924
(43)Date of publication of application : 04.08.1998

(51)Int.CL A61K 7/00
A61K 7/48

(21)Application number : 09-025888 (71)Applicant : SHISEIDO CO LTD
(22)Date of filing : 24.01.1997 (72)Inventor : SUZUKI KAZUAKI
OGAWA HARUO
NISHIYAMA SEIJI

(54) PACK COSMETIC

(57)Abstract

PROBLEM TO BE SOLVED: To obtain the subject cosmetic containing a nonionic surfactant and a higher alcohol, and excellent in usability enabling to actually feel the freshness, slipperiness and new touch of skin, after the pack cosmetic is washed out from the skin.

SOLUTION: This pack cosmetic comprises (A) 0.1–5.0wt% of one or more kinds of nonionic surfactants preferably each having a HLB of 12.0 (e.g. glyceryl monostearate), (B) 0.1–5.0wt% of a solid (at room temperature) higher alcohol preferably having 12–28 carbon atoms (e.g. stearyl alcohol), and, if necessary, (C) a powdery material, a higher fatty acid, a thickening agent, a UV light absorbent, a humectant, an organic solvent, an antioxidant, an antibacterial and antiseptic agent, an amino acid, an organic acid, vitamin B, vitamin C, vitamin D, vitamin E, various kinds of medicines, a coloring agent, a surfactant, a perfume, purified water, etc.

LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平10-203924

(43)公開日 平成10年(1998)8月4日

(51)Int.Cl.*

A 61 K 7/00
7/48

識別記号

F I

A 61 K 7/00
7/48

U

審査請求 未請求 請求項の数5 FD (全6頁)

(21)出願番号

特願平9-25888

(22)出願日

平成9年(1997)1月24日

(71)出願人 000001959

株式会社資生堂

東京都中央区銀座7丁目5番5号

(72)発明者 鈴木 一明

神奈川県横浜市港北区新羽町1050番地 株
式会社資生堂第一リサーチセンター内

(72)発明者 小川 晴生

神奈川県横浜市港北区新羽町1050番地 株
式会社資生堂第一リサーチセンター内

(72)発明者 西山 聖二

神奈川県横浜市港北区新羽町1050番地 株
式会社資生堂第一リサーチセンター内

(74)代理人 弁理士 ▲高▼野 俊彦 (外1名)

(54)【発明の名称】 パック化粧料

(57)【要約】

【課題】 パック行為をしてパック化粧料を洗い流した後水々しい感じやつるつる感及び一皮剥けた感じが実感できる使用性に極めて優れたパック化粧料を提供すること。

【解決手段】 非イオン性界面活性剤の一種または二種以上と、高級アルコールの一種または二種以上とを含有することを特徴とするパック化粧料である。

【特許請求の範囲】

【請求項1】 非イオン性界面活性剤の一種または二種以上と、高級アルコールの一種または二種以上とを含有することを特徴とするパック化粧料。

【請求項2】 前記非イオン性界面活性剤のHLBが12.0以下であることを特徴とする請求項1記載のパック化粧料。

【請求項3】 前記高級アルコールの炭素数が12以上28以下であって室温で固形状であることを特徴とする請求項1または2記載のパック化粧料。

【請求項4】 前記非イオン性界面活性剤の含有量が0.1~5.0重量%であることを特徴とする請求項1、2または3記載のパック化粧料。

【請求項5】 前記高級アルコールの含有量が0.1~5.0重量%であることを特徴とする請求項1、2、3または4記載のパック化粧料。

【発明の詳細な説明】**【0001】**

【発明の属する技術分野】 本発明は新規なパック化粧料に関する。さらに詳しくは、パック行為をしてパック化粧料を洗い流した後、水々しい感じ、つるつる感及び一皮剥けた感じが実感出来る使用性に極めて優れた新規なパック化粧料に関する。

【0002】

【従来の技術】 従来のパック化粧料、特に洗い流すタイプのクレイ状パック化粧料においては、その効果として、皮脂などの油分や汚れを取り去り洗い流し後の肌感触はさらさらとしてさっぱりするが、水々しい感じやつるつる感及び一皮剥けた感じを実感することが困難であった。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 したがって、パック行為をしてパック化粧料を洗い流した後に水々しい感じやつるつる感及び一皮剥けた感じが実感できる使用性に優れた新しいパック化粧料の開発が課題とされてきた。

【0004】 本発明者等は、上述の事情に鑑み銳意研究を重ねた結果、非イオン性界面活性剤の一種または二種以上と高級アルコールの一種または二種以上とを組み合わせてパック化粧料に配合させると、パック行為をしてパック化粧料を洗い流した後に水々しい感じやつるつる感及び一皮剥けた感じが実感できる使用性に優れたパック化粧料が得られることを見い出し本発明を完成するに至った。

【0005】 本発明は、パック行為をしてパック化粧料を洗い流した後に、従来のパック化粧料には見られない新しい使用感、すなわち水々しい感じやつるつる感及び一皮剥けた感じが実感できる使用性に極めて優れたパック化粧料を提供することを目的とするものである。

【0006】

【課題を解決するための手段】 すなわち、本発明は非イ

オン性界面活性剤の一種または二種以上と、高級アルコールの一種または二種以上とを含有することを特徴とするパック化粧料を提供するものである。

【0007】 また、本発明は、上記非イオン性界面活性剤のHLBが12.0以下であることを特徴とする上記記載のパック化粧料を提供するものである。

【0008】 さらに、本発明は、上記高級アルコールの炭素数が12以上28以下であって室温で固形状であることを特徴とする上記記載のパック化粧料を提供するものである。

【0009】 また、本発明は、上記非イオン性界面活性剤の含有量が0.1~5.0重量%であることを特徴とする上記記載のパック化粧料を提供するものである。

【0010】 さらに、本発明は、上記高級アルコールの含有量が0.1~5.0重量%であることを特徴とする上記記載のパック化粧料を提供するものである。

【0011】 以下、本発明の構成について詳述する。発明に使用される非イオン界面活性剤としては、例えば、以下のものが挙げられる。親油性非イオン界面活性剤としては、例えば、ソルビタンモノオレエート、ソルビタンモノイソステアレート、ソルビタンモノラウレート、ソルビタンモノパルミテート、ソルビタンモノステアレート、ソルビタンセスキオレエート、ソルビタントリオレエート、ペンタ-2-エチルヘキシル酸ジグリセロールソルビタン等のソルビタン脂肪酸エステル類、モノ綿実油脂酸グリセリン、モノエルカ酸グリセリン、セスキオレイン酸グリセリン、モノステアリン酸グリセリン、 α 、 α' -オレイン酸ピログルタミン酸グリセリン、モノステアリン酸グリセリンリンゴ酸等のグリセリンポリグリセリン脂肪酸類、モノステアリン酸プロピレングリコール等のプロピレングリコール脂肪酸エステル類、硬化ヒマシ油誘導体、グリセリンアルキルエーテル等が挙げられるがこれらに限定されるものではない。親水性非イオン界面活性剤としては、例えば、POEソルビタンモノオレエート、POEソルビタンモノステアレート、POEソルビタン脂肪酸エステル類、POEソルビットモノラウレート、POEソルビットモノオレエート、POEソルビットペンタオレエート、POEソルビットモノステアレート等のPOEソルビット脂肪酸エステル類、POEグリセリンモノステアレート、POEグリセリントリイソステアレート等のPOEグリセリン脂肪酸エステル類、POEモノオレエート、POEモノステアレート、POEジステアレート、POEモノジオレエート、ジステアリン酸エチレングリコール等のPOE脂肪酸エステル類、POEラウリルエーテル、POEオレイルエーテル、POEステアリルエーテル、POEベニルエーテル、POE2-オクチルドデシルエーテル、POEコレスタノールエーテル等のPOEアルキルエーテル類、POEオクチルフェニルエーテル、POEノニルフェニル

エーテル、POEジノニルフェニルエーテル等のPOEアルキルフェニルエーテル類、ブロニック（ポリオキシエチレン・ポリオキシプロピレングリコール）等のブロニック型類、POE・POPセチルエーテル、POE・POP2-デシルテトラデシルエーテル、POE・POPモノブチルエーテル、POE・POP水添ラノリン、POE・POPグリセリンエーテル等のPOE・POPアルキルエーテル類、テトロニック等のテトラPOE・テトラPOPエチレンジアミン縮合物類、POEヒマシ油、POE硬化ヒマシ油、POE硬化ヒマシ油モノイソステアレート、POE硬化ヒマシ油トリイソステアレート、POE硬化ヒマシ油モノビログルタミン酸モノイソステアリン酸ジエステル、POE硬化ヒマシ油マレイン酸等のPOEヒマシ油硬化ヒマシ油誘導体、POEソルビットミツロウ等のPOEミツロウ・ラノリン誘導体、ヤシ油脂肪酸ジエタノールアミド、ラウリン酸モノエタノールアミド、脂肪酸イソプロパノールアミド等のアルカノールアミド、POEプロピレングリコール脂肪酸エステル、POEアルキルアミン、POE脂肪酸アミド、ショ糖脂肪酸エステル、POEノニルフェニルホルムアルデヒド縮合物、アルキルエトキシジメチルアミノキシド、トリオレイルリン酸等が挙げられるがこれらに限定されるものではない。本発明において使用される非イオン界面活性剤は単独で配合されても2種以上を組合せて配合されてもよい。

【0012】好ましい非イオン界面活性剤のHLBは12.0以下であり、さらに好ましくは10.0以下である。HLBが12.0を越えると、洗い流し後の水々しくて一皮剥けた感じが実感しにくい場合がある。具体的には、モノステアリン酸グリセリル、モノステアリン酸ポリオキシエチレンジセリン、イソステアリン酸ポリオキシグリセリル等の非イオン界面活性剤が好ましく使用される。

【0013】その配合量は、パック化粧料全量に対して通常0.1～5.0重量%が好ましく、さらに好ましくは0.5～3.0重量%である。0.1重量%未満では所期の効果を実感しにくく、5.0重量%以上では洗い流した後にべたつきを感じる場合がある。

【0014】本発明に使用される高級アルコールとしては、例えば、ラウリルアルコール、セチルアルコール、ステアリルアルコール、ベヘニルアルコール、ミリスチルアルコール、セトステアリルアルコール等の直鎖高級アルコール；グリセリルモノステアリルエーテル（バチルアルコール）、グリセリルモノセチルエーテル（キミルアルコール）等の分岐鎖アルコール等を挙げることが可能であるが、これらに限定されるものではない。本発明に使用する高級アルコールは、単独で配合されても2種以上を組み合わせて配合されてもよい。

【0015】本発明に使用される好ましい高級アルコールの炭素数は12～28であり室温で固形状のものであ

る。具体的には、ステアリルアルコール、ベヘニルアルコール、バチルアルコール等の高級アルコールが好ましく使用される。

【0016】その配合量は、パック化粧料全量に対して通常0.1～5.0重量%が好ましく、さらに好ましくは0.5～3.0重量%である。0.1重量%未満では所期の効果を実感しにくく、5.0重量%を越えると経時安定性が低下する場合がある。

【0017】本発明においては、パック化粧料に上記必須成分の非イオン性界面活性剤の一種または二種以上と高級アルコールの一品または二種以上とを組み合わせて配合することによって、パック行為をしてパック化粧料を洗い流した後、水々しい感じやつるつる感及び一皮剥けた感じを実感出来る使用性に極めて優れたパック化粧料が提供出来る。

【0018】本発明のパック化粧料は上記必須成分の他に通常パック化粧料に用いられる他の配合成分を本発明の効果を損なわない範囲で配合して常法により製造することが出来る。例えば、二酸化チタン、マイカ、タルク、カオリン、シリカ等の粉末成分、アボガド油、トウモロコシ油、オリーブ油、ナタネ油、月見草油、ヒマシ油、ヒマワリ油、茶実油、コメヌカ油、ホホバ油、カカラ油、ヤシ油、スクワラン、スクワレン、牛脂、モクロウ、ミツロウ、キャンデリラロウ、カルナバロウ、鯨ロウ、ラノリン、シリコン油、フッソ油、流動パラフィン、セレシン、ワセリン、ポリオキシエチレン（8モル）オレイルアルコールエーテル、モノオレイン酸グリセリル等の油分、コレステロール、フィトステロール等のステロール、カプリン酸、ラウリン酸、ミリスチン酸、パルミチン酸、ステアリン酸、ベヘニン酸、ラノリン脂肪酸、リノール酸、リノレン酸等の高級脂肪酸、バラアミノ安息香酸、ホモメンチル-7N-アセチルアラントラニレート、ブチルメトキシベンゾイルメタン、ジーパラメトキシケイ皮酸-モノ-2-エチルヘキサン酸グリセリル、アミルサリシレート、オクチルシンナメート、2,4-ジヒドロキシベンゾフェノン等の紫外線吸収剤、ポリエチレングリコール、グリセリン、ソルビトール、キシリトール、マルチトール等の保湿剤、メチセルロース、エチセルロース、カルボキシビニルポリマー、アルキル変性カルボキシビニルポリマー、ポリビニルアルコール、モンモリナイト、ラボナイト等の増粘剤、エタノール、1,3-ブチレンジコール等の有機溶剤、ジブチルヒドロキシトルエン、トコフェロール、フィチン酸等の酸化防止剤、安息香酸、サリチル酸、ソルビン酸、パラオキシ安息香酸アルキルエステル（エチルパラベン、ブチルパラベン等）、ヘキサクロロフェン等の抗菌防腐剤、グリシン、アラニン、バリン、ロイシン、セリン、トレオニン、フェニルアラニン、チロシン、アスパラギン酸アスパラギン、グルタミン、タウリン、アルギニン、ヒスチジン等のアミノ酸及びこれらの

アルカリ金属塩と塩酸塩、アシルサルコシン酸（例えばラウロイルメチルサルコシンナトリウム等）、グルタチオン、リンゴ酸、酒石酸等の有機酸、ビタミンA及びその誘導体、ビタミンB₆塩酸塩、ビタミンB₆トリパルミテート、ビタミンB₆ジオクタノエート、ビタミンB₂及びその誘導体、ビタミンB₁₂、ビタミンB₁₅及びその誘導体等のビタミンB類、アスコルビン酸、アスコルビン酸硫酸エステル（塩）、アスコルビン酸リン酸エステル（塩）、アスコルビン酸ジパルミテート等のビタミンC類、 α -トコフェロール、 β -トコフェロール、 γ -トコフェロール、ビタミンEアセテート、ビタミンEニコチネート等のビタミンE類、ビタミンD類、ビタミンH、パントテン酸、パンテチン等のビタミン類、ニコチン酸アミド、ニコチン酸ベンジル、 α -オリザノール、アラントイン、グリチルリチン酸（塩）、グリチルレチン酸及びその誘導体、ヒノキチオール、ムシジン、ビサボロール、ユーカリブトール、チモール、イノシトール、サポニン類（サイコサポニン、ニンジンサポニン、ヘチマサポニン、ムクロジサポニン等）、パントテニルエチルエーテル、エチニルエストラジオール、セファランチン、プラセンタエキス、アルブチン、トラネキサム酸等の各種薬剤、ギシギシ、クララ、コウホネ、オレンジ、セージ、ノコギリソウ、ゼニアオイ、センキュウ、センブリ、タイム、トウキ、トウヒ、バーチ、スギナ、ヘチマ、マロニエ、ユキノシタ、アルニカ、ユリ、ヨモギ、シャクヤク、アロエ、クチナシ等の植物の有機溶媒、アルコール、多価アルコール、水、水性アルコール等で抽出した天然エキス、色素、ステアリルトリメチルアンモニウムクロライド、塩化ベンザルコニウム、ラウリルアミンオキサイド等のカチオン性界面活性剤、パルミチン酸ナトリウム、ラウリン酸ナトリウム、ラウリル硫酸ナトリウム、ラウリル硫酸カリウム、アルキル硫酸トリエタノールアミンエーテル、ロート油、リニアドデシルベンゼン硫酸、ポリオキシエチレン

硬化ヒマシ油マレイン酸、アシルメチルタウリン等のアニオン性界面活性剤、両性界面活性剤、香料、精製水等を適宜配合することが出来る。

【0019】本発明のパック化粧料は、化粧品、医薬部外品または医薬品などとして外皮に適用して皮脂などの油分や汚れを取り去ることを目的としたパック剤すべてを含み、その剤形は、乳化系、粉末系、ゲル系等の形態を取り得る。

【0020】

【実施例】次に実施例を挙げて本発明をさらに具体的に説明するが本発明はこれらに限定されるものではない。なお、配合量は重量%である。

【0021】「表1」の処方によって常法によりパック化粧料を製造し、その使用性について実使用テストを行い使用性を評価した。

【0022】「製造方法」Bの粉末相とCの油相をAの水相に加えて搅拌混合した後、Dのアルコール相を加えて更に搅拌混合してパック化粧料を得た。

【0023】「使用性の評価」1群10名の女性によって、製造したパック化粧料を実際に使用し、水々しさとつるつる感及び一皮むけた感じについて官能試験を行い、以下の基準で評価した。

◎：10名中8名以上が良好と回答した。

○：10名中6名以上が良好と回答した。

△：10名中4名以上が良好と回答した。

×：10名中4名未満が良好と回答した。

【0024】「表1」に示す通り、非イオン界面活性剤と高級アルコールとを配合した実施例1及び2の本発明のパック化粧料は、非イオン界面活性剤及び高級アルコールとを配合していない比較例1～3のパック化粧料と比較して、水々しさとつるつる感及び一皮むけた感じについて極めて優れた使用性を有している。

【0025】

【表1】

成分	実施例1	実施例2	比較例1	比較例2	比較例3
A. 水相					
精製水	残余	残余	残余	残余	残余
1,3-ブチレンジオール	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
B. 粉末相					
酸化亜鉛	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
カオリン	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
ベントナイト	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
C. 油相					
ステアリルアルコール	0.3	1.5	1.5	-	-
ベヘニルアルコール	0.3	1.5	1.5	-	-
モノステアリン酸ケリセリン	0.3	1.5	-	1.5	-
モノステアリン酸カリオキシ エチレンジリセリン	0.3	1.5	-	1.5	-

D. アルコール相

エタノール	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0
メチルパラベン	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1

[使用性の評価]

水々しさ	◎	◎	×	△	×
つるつる感	◎	◎	△	×	×
一皮剥けた感じ	◎	◎	△	△	×

【0026】「実施例3」

A. 水相

精製水	残余
1, 3-ブチレングリコール	10.0
ソルビトール	5.0
プロピレングリコール	3.0
ヘキサメタリン酸ナトリウム	0.05
ヒドロキシメトキシベンゾフェノン	0.1
スルホン酸ナトリウム	
ヒアルロン酸ナトリウム	0.1
シャクヤクエキス	0.2
苛性カリ	0.15

B. 粉末相

酸化亜鉛	5.0
カオリン	3.0
ベントナイト	5.0
酸化チタン	1.0

C. 油相

ミリスチン酸	1.0
ステアリルアルコール	2.0
パチルアルコール	2.0
モノステアリン酸グリセリル	0.5
モノステアリン酸	0.5
ポリオキシエチレングリセリン	

D. アルコール相

エタノール	5.0
1-カルボキシメチル-1-ヒドロキシエチル	0.4
-ウンデシル-2-イミダゾリンナトリウム塩	
(ウンデシルイミダゾリニウムベタイン)	
苛性カリ	0.2
エチルパラベン	0.1
プラセンタエキス	0.01

「製法」Bの粉末相をAの水相に加えて搅拌混合した後、Dの油相とCのアルコール相を加えて更に搅拌混合してパック化粧料を得た。

「使用性」このパック化粧料は、水々しさとつるつる感

及び一皮むけた感じについて極めて優れた使用性を有していた。

【0027】「実施例4」

A. 水相

精製水	残余
グリセリン	5.0
ジプロピレングリコール	5.0
エデト酸塩	0.1

苛性カリ	0.05
B. 粉末相	
カオリン	3.0
タルク	3.0
ベントナイト	3.0
酸化チタン	3.0
顔料	適量
C. 油分	
イソステアリン酸	0.1
ベヘニルアルコール	1.0
モノステアリン酸グリセリン	0.5
イソステアリン酸ポリオキシエチレングリセリル	1.0
D. アルコール相	
エタノール	5.0
ラウリルジメチルアミノ酢酸ベタイン	0.02
ラウロアミドベタイン	0.02
メントール	0.01
メチルパラベン	0.1
香料	適量

「製法」Bの粉末相をAの水相に加えて攪拌混合した後、Dの油相とCのアルコール相を加えて更に攪拌混合してパック化粧料を得た。
 「使用性」このパック化粧料は、水々しさとつるつる感及び一皮剥けた感じが実感できる使用性に極めて優れたパック化粧料を提供出来る。

【0028】

【発明の効果】本発明によれば、パック行為をしてパック化粧料を洗い流した後水々しい感じやつるつる感及び一皮剥けた感じが実感できる使用性に極めて優れたパック化粧料を提供出来る。